

「JENESYS2.0」

2015 年度中国高校生訪日団第 4 陣 B コース

訪問日程 平成 27 年 11 月 3 日（火）～11 月 11 日（水）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した 2015 年度中国高校生訪日団第 4 陣 B コース計 122 名が、11 月 3 日から 11 月 11 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。（団長＝胡鋭（コ・エイ）
貴州省教育庁体育衛生芸術教育處處長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、東京都をはじめ、長崎県、福岡県、宮崎県、青森県を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、訪問都道府県における学校交流や、企業視察等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

11月3日(火)

羽田国際空港より入国

11月4日(水)

オリエンテーション

早稲田大学訪問・大学生との交流

セミナー: テーマ「科学も感動から」

歓迎会

11月5日(木)

第1分団: 青森県へ移動, アルバック東北株式会社訪問

第2分団: 長崎県へ移動, 三菱重工業株式会社長崎造船所訪問

第3・4分団: 福岡県へ移動, トヨタ自動車九州株式会社訪問

11月6日(金)

第1分団: 八戸工業大学第二高等学校訪問・交流

第2分団: 長崎県立佐世保北高等学校訪問・交流

第3分団: 福岡県立門司学園高等学校訪問・交流

第4分団: 福岡県立北筑高等学校/福岡県立ひびき高等学校訪問・交流

11月7日(土)

第1分団: 八戸リサイクルプラザ視察, 農業体験, 奥入瀬溪流見学

第2分団: 展海峰見学, 楽焼絵付け体験, 長崎市平和公園視察, グラバー園見学

第3・4分団: 北九州環境みらい学習, 関門海峡ミュージアム見学, 門司港レトロ見学

11月8日(日)

第1・2・3分団:東京都へ移動, 日本科学未来館視察

第4分団:宮崎県へ移動, 宮崎科学技術館視察

11月9日(月)

第1分団:早稲田大学高等学院訪問・交流

第2分団:光が丘清掃工場視察, 東京都立大泉桜高等学校訪問・交流

第3分団:墨田清掃工場視察, 東京都立府中東高等学校訪問・交流

第4分団:宮崎県立宮崎西高等学校訪問・交流

11月10日(火)

第1・2・3分団:国会議事堂視察

第4分団:東京都へ移動

全分団:浅草仲見世見学, 商業施設視察

歓送報告会

11月11日(水)

羽田国際空港から出国

3 照片

	
11月4日 オリエンテーション（早稲田大学：東京都）	11月4日 早稲田大学訪問（東京都）
11月4日 導入研修（早稲田大学：東京都）	11月4日 早稲田大学訪問（東京都）
	
11月4日 歓迎会（東京都）	11月4日 東京理科大学 藤嶋昭学長による セミナー「科学も感動から」（東京都）
11月4日 歓迎会（東京都）	11月4日 東京理科大学 藤島昭学長講座 「科学源于感动」（東京都）
	
11月5日 三菱重工業株式会社長崎造船所訪問（長崎県）：第2分団	11月5日 アルバック東北株式会社訪問（青森県）：第1分団
11月5日 三菱重工業株式会社長崎造船所訪問（長崎県）：第2分団	11月5日 ULVAC 東北株式会社訪問（青森県）：第1分団

11月5日 トヨタ自動車九州株式会社訪問(福岡県)：第3、4分団	11月6日 八戸工業大学第二高等学校訪問・交流(青森県)：第1分団
11月5日 豊田汽車九州株式会社訪問(福岡県)：第3、4分団	11月6日 八戸工業大学第二高中訪問・交流：第1分団
11月6日 長崎県立佐世保北高等学校訪問・交流(長崎県)：第2分団	11月6日 福岡県立門司学園高等学校訪問・交流(福岡県)：第3分団
11月6日 長崎県立佐世保北高中訪問・交流(長崎県)：第2分団	11月6日 福岡県立門司学園高中訪問・交流(福岡県)：第3分団
11月6日 福岡県立北筑高等学校訪問・交流(福岡県)：第4分団	11月6日 福岡県立ひびき高等学校訪問・交流(福岡県)：第4分団
11月6日 福岡県立北筑高中訪問・交流(福岡県)：第4分団	11月6日 福岡県立回声高中訪問・交流(福岡県)：第4分団

	
11月7日 農業体験-りんごの収穫（青森県） ：第1分団	11月7日 八戸リサイクルプラザ視察（青森県） ：第1分団
11月7日 農業体験-采摘苹果（青森县） ：第1分団	11月7日 八戸回收再利用广场视察（青森县） ：第1分団
	
11月7日 奥入瀬溪流見学（青森県） ：第1分団	11月7日 展海峰見学（長崎県）：第2分団
11月7日 奥入瀬溪流参观（青森县） ：第1分団	11月7日 展海峰参观（长崎县）：第2分団
	
11月7日 楽焼絵付け体験（長崎県）：第2分団	11月7日 長崎市平和公園視察（長崎県） ：第2分団
11月7日 乐烧彩绘体验（长崎县）：第2分団	11月7日 长崎市和平公园视察（长崎县） ：第2分団

	
11月7日 北九州環境みらい学習（福岡県） ：第3、4分団	11月7日 北九州環境みらい学習（福岡県） ：第3、4分団
11月7日 北九州環境未来学習（福岡県） ：第3、4分団	11月7日 北九州環境未来学習（福岡県） ：第3、4分団
	
11月7日 関門海峡ミュージアム見学（福岡県） ：第3、4分団	11月8日 日本科学未来館視察（東京都） ：第1、2、3分団
11月7日 関門海峡博物館参観（福岡県） ：第3、4分団	11月8日 日本科学未来館視察（東京都） ：第1、2、3分団
	
11月8日 宮崎科学技術館視察（宮崎県） ：第4分団	11月9日 早稲田大学高等学院訪問・交流（東京都） ：第1分団
11月8日 宮崎科学技術館視察（宮崎県） ：第4分団	11月9日 早稲田大学高中訪問・交流（東京都） ：第1分団

	
11 月 9 日 光が丘清掃工場視察（東京都）：第 2 分団	11 月 9 日 東京都立大泉桜高等学校訪問・交流（東京都）：第 2 分団
11 月 9 日 光之丘清扫工厂视察（東京都）：第 2 分団	11 月 9 日 東京都立大泉桜高中访问・交流（東京都）：第 2 分団
	
11 月 9 日 東京都立府中東高等学校訪問・交流（東京都）：第 3 分団	11 月 9 日 宮崎県立宮崎西高等学校訪問・交流（宮崎県）：第 4 分団
11 月 9 日 東京都立府中東高中访问・交流（東京都）：第 3 分団	11 月 9 日 宮崎県立宮崎西高中访问・交流（宮崎県）：第 4 分団
	
11 月 10 日 国会議事堂視察（東京都）：第 1 ～ 3 分団	11 月 10 日 歓送報告会（東京都）
11 月 10 日 国会议事堂视察（東京都）：第 1 ～ 3 分団	11 月 10 日 欢送报告会（東京都）

4 参加者の感想（抜粋）

○あっという間に九日間の訪日が終わりました。今回の訪日交流期間中で、たくさんの日本の友人と知り合って、たくさんの日本文化を体験して、たくさんの収穫があったと言えます。下記のいくつかのことに特に心が打たれ、深い印象として私の記憶に残りました。

一、日本のあらゆる公共施設はとても人に優しく、障害者や子連れの人達に配慮しています。例えば、日本の多くの道路に視覚障害者専用の道が造られており、交差点の信号機の電柱に視覚障害者のための押しボタンが設置されていて、多くのエレベーターに視覚障害者のための点字があり、それが設置されている高さも車いす使用者を考慮したものです。これらはすべて日本の障害者配慮の表れだと思います。逆に中国国内を見ますと、障害者や子連れの人達のために提供する特別なサービスは少ないです。中国の公共施設の建設は更に進める必要があります。

二、日本には一つ暗黙の了解と言われるマナーがあります。お客さんが帰る時、主人は必ず手を振って、お客が見えなくなるまで見送ります。訪日交流期間中、至る所で私達がバスに乗って離れる際に、サービススタッフが手を振って見送ってくれました。これは正に日本伝統文化の一種の表現です。このように礼儀正しく、情熱と真心を込めた行動は来日したすべての人々に家族のような温かさを感じさせてくれます。

帰国後、私は周りの人に日本のすばらしい習慣を宣伝して、日本に対する偏見も変えていきたいと思います。

○光栄なことに八戸工業大学第二高等学校を訪問し、直接日本の学生たちと交流することができました。ここで体験した美術コースの授業は今回訪日日程の中で最も印象に残ります。

普通の美術コースの授業の見学と思っていましたが、絵を描くことになるとは予想外でした。私は書道は得意なのですが、絵を描くこと、特に人物画は苦手です。だから驚きました。でもその後の出来事で、私が考えすぎであったことがわかりました。うれしいことに優雅で綺麗なMさんから絵をもらうことができました。皆に羨ましがられました。Mさんの顔を描いている間は正直まったく自信がなく、醜い顔に描いてしまったらどうしようと心配ばかりしました。幸いなことに優しい美術の先生の助けで彼女の似顔絵を完成しました。お互いに似顔絵を交換する時のMさんの微笑みは、永遠の思い出になりました。日本の友人との本当の友好のシンボルとなりました。最後は私も画室で皆の前で自分の思いを書道で披露しました。それも永遠の記憶として残るでしょう。

もちろん、今回の訪日の目的と使命を忘れていません。帰国後まずやりたいことは私が日本で熱烈な歓迎と周到なおもてなしを受けたことと、日本人の親切と純朴さを私のクラスメートや家族に伝えることです。そして日本の都会の発展、秩序正しさ、濃厚な人々の情緒、高い教育水準、先進的技術なども細かく紹介してあげたいです。彼らにも真の日本を認識してもらい、この東方の隣国を愛してほしいと考えています。今後、私は自らを始め、中日関係に正しい態度で臨み、そして周りのクラスメートにも中日関係を正しく認識するよう導き、確実に中日友好に貢献したいと思います。

○今回の訪日日程の中で、一番印象に残ったのは青森県八戸ごみリサイクルプラザへの訪問でした。周知のように、日本は資源の乏しい島国です。資源の制約により、確かに経済発展に一定の弊害をもたらします。しかし日本は数多くの有力な対策を打ち出し、この現状を改善しました。その答えはごみ処理リサイクル工場にあります。すべてのごみを何種類かに大きく分けたあと、更に工場の機械で細かく分類し、純度を上げ、最終的には加工によって再利用可能な商品の原料とします。このことによって、すべての資源の使用寿命を延長することができ、役割も存分に発揮できます。八戸資源リサイクルプラザは規模の小さい地方工場ですが、日本の一千か所、一万か所のリサイクル工場の縮図であると思います。そこで見受けられるのは、日本人の資源と環境の保護に取り組む真剣な態度と姿勢です。深く感銘を受けました。帰国したら、私は積極的に周りの人々に日本人の環境保護における態度と対策を伝えたいと思います。彼らの長所を学んで、彼らの環境に対する自覚と思いやりのある精神を学んで、我が国の資源保護、環境保護の事業に貢献したいです。

○私にとって、今回の訪問の中で、最も印象に残るのは日本の高校生との交流です。日本の学生たちは非常に情熱的で、私達を見た瞬間、高く手を振って挨拶してくれました。交流中に言葉はあまり通じませんでしたが、彼らは簡単な英語また身振り手振りで一生懸命説明してくれたので、始終活発な雰囲気でした。早稲田大学高等学院を訪問した時、私達は中国語を第二外国語として勉強している高3の学生たちと交流しました。彼らが話す中国語は流暢ではありませんでしたが、覚えた単語の量の豊富さに驚きました。最も勉強したのは丁寧な挨拶用語のようでした。交流の中で、彼らは止まることなく、中国語の文法について聞いて来るのです。彼らの謙虚な勉学の姿は私の頭の中に深く刻まれました。この異国の地で、このような貴重な友情を得られることは本当に光栄です。温かさを感じました。

帰国したら、私は周りの人々にありのままの日本を伝え、日本への間違った認識を無くし、中日友好に貢献できるよう努力します。

○日本での見聞

- 1、日本の道路にはごみ箱が少ないのに、ごみはほとんど見られない。
- 2、日本の土地は狭いが、住宅マンション、道路の両側、個人宅の玄関や庭には盆栽がたくさんあり、環境意識が高い。
- 3、交差点では信号が赤であろうが、青であろうが、車は必ず歩行者を優先する。
- 4、日本には公共のグラウンドや運動施設は少ないようで、市民たちの室外の運動としてランニングと自転車走行がよく見られる。
- 5、日本の販売員はお客に対して非常に礼儀正しく、出来るだけお客のニーズに応じる。たとえ最終的にそこで買い物しなくても。

○この度の訪問期間中、最も印象深い事は日本人がゴミを入念に、また精細に分類・回収しリサイクルすることです。ゴミは16種類にまで分類され、その後は他の用途に再加工されます。例えば誰にも想像できないことですが、2リットルのペットボトルは、その半分だけで小学生用の黄色い帽子に加工できます。この事を知ったとき、本当に驚きました。次に発見したのは、日本が礼儀正しい国であることです。例えば道路を渡ろうとする時、車

は人から離れたところに止まります。どんな時もお辞儀をする習慣があり、人が多い場合でもみんな静かにしています…そうした礼儀の背後に、人情の温もりも感じました。例えば、デパートや店に入るときの挨拶から、日本人の優しさに感心します。最も有意義な体験は日本の学校を訪問したことだと思います。その訪問により私は日本の青少年の生活を更に理解することができました。両国学生の交流は言葉の支障がありましたが、楽しく会話できました。また、学校を訪問する間、日本人の情熱を深く感じました。

この度の訪問は、私にとっては忘れ難い経験であり、また意味のある収穫だったと思います。時は流れ、あっという間に私達の帰国の時間になりますが、私はこの思い出を持って祖国に帰りたいと思います。

○日本を訪問中、藤嶋昭先生の「科学技術は感動から」と題した講演を聞きました。その時は、内容をよく理解できませんでしたが、その後の訪問を通じて、「すべては敬意から」が今回訪日の最大の収穫であると感じました。

「すべては敬意から」、日本の科学技術は世界トップクラスになりました。非常に分かりやすい例として、アメリカ人が発明した自動洗浄の便座について、日本人はそれを改善し、普及させ、やがて誇るべき代表的な製品としたという事例があります。歴史的に見ると、日本は知識や技術に対して敬意を持ち、既存のものをずっと改善してきました。だからこそ、日本は世界の科学技術の発展をリードしました。

「すべては敬意から」、日本は多くの文化を保存することができました。中国は堂々たる紀元前後五千年の歴史がありますが、その中に「文化断層」が存在します。中国と違って、日本人は尊敬する伝統、文化、習慣を今まで保持しました。まるで茶道が提唱した「一期一会」の様に、彼らは毎回の出会いは、一生に一度だけの可能性だと信じ、敬意を持ち、最善の努力をします。

「すべては敬意から」、日本は環境整備に極めてうまく成功しました。訪日中に訪れた北九州環境博物館は印象深いです。以前は「死の海」だった洞灣岸を整備して、とても綺麗にしました。私の故郷には川がありますが、汚染により臭気が溢れています。政府は大金を投入し対処しましたが、その川の元々の自然美を取り戻すことができませんでした。技術面では中国にとっても難しくはないですが、日本人の自然に対する尊敬の念、人と自然の調和を重視する気持ちが、環境管理についてはより秀でる結果となったのです。

以上は、帰国後、皆に伝えたいことです。「すべては敬意から」、この言葉は、中国の人たちが本当に理解できたら、中国の未来はもっとすばらしいものになると思います。

○まず、一番印象深いのは日本での現地学校訪問でした。学生の私たちは、特に異国の同世代の日常生活を身をもって体験したいと思っています。とりわけこのような科学技術の先進国である日本においては、国の青少年に対する全方面の教育と授業活動についてもっと理解したいと思っています。本当にびっくりしたのは——日本の高校生が厳しい冬に薄着の服で運動することと、科学実験活動での真面目さと細かさでした。

帰国後、日本での見聞について周りの人と共有したいと思います。中日関係は紆余曲折がありましたが、中日両国の民間往来は絶えませんでした。日本人は民族的偏見を持たず、優しさにあふれ、非常に友好的です。両国のすべての人民の平和友好に対する期待は共通です。中日韓の三者会談は、更に私たちのこの希望を強固にしました。両国の人民が共に

努力することで、中日の友情はきっと永遠になると信じます。

○最も印象的なのは日本人が、食事のときなどに細かいことに気を付けることでした。そうしたこまごまとしたことに、確かに日本国民の文化的素質の高さが見られます。それらは次の三点に現れていました。①日本人は仕事に対して終始一貫していました。②清潔を好み、きちんとし、静かであることを楽しみます。③細かいことを重視し、人に対して誠実でした。

さらに、宮崎西高校を訪問した日についても印象深いです。中国が高度に発展した今日、中国の学生が各方面で示す能力は祖国の実力を十分に証明できます。しかし私達の努力はまだ必要ですし、中国を発展させるためにもっと勉強したいと思います。

帰国した後に周囲には以下のことを伝えたいと思います。私は日本において、短い日数ですが真実の日本を見ました。いかなる民族的偏見をもたず、両国間の政治的衝突も考慮に入れることなく、日本について客観的な評価をしたいと思います。例えば、日本のごみ分類について、緻密さの程度は缶だけでもいくつかに分類するほどです。中国人の目から見ると、複雑、めんどろ、ひいては不必要なほどの細かさで、いくつもの資源を節約していました。日本は生活を享受する国であって、特に細かいことについて極限まで追求し、人々のニーズを満たします。最も有名な便座に加え、エレベーターやバスなどでもこうしたことが反映されています。高齢化が深刻化する中で、日本の製品やサービスの企画は高齢者に配慮したものになっています。日本人は誠実ですので、買い物の場合では偽物を買う心配は不要ですし、「優先席」が空いた場合に、日本人は座らずに必ず立ちます。このようなことから、こうしたよい資質こそ、私たちの国が非常に学ぶべきものと感じました。これが私の収穫だったと思います。

○この度の訪日は意義に富み、充実した楽しい訪問でした。

日本が私に残した印象は何か一つの事柄だけではなく、この国の全体的な良いイメージだと思います。つまり、高度に発展した日本と、資質の高い国民全体ということです。整った施設、きれいな街、機械化されたかのような秩序、厳密な仕事、満面の笑みを浮かべるスタッフ、すべてこの国に到着すると同時に目の当たりにしました。これらの高い資質を手に入れるためには、経済発展に頼るだけでは十分ではありません。我が国の教育が全面的に発展することが必要だと思います。日本では二回道を聞いた事がありました。二回とも相手は聞いても良く理解できなかったようでしたが、二人とも地図を調べ、私達を連れて10分以上歩いてくれました。運が良かったのかもしれませんが、このような親切さと友好的な姿勢に、私と同伴者は非常に感動し、感心させられました。

周りの人に伝えたいこととしては、このようなほめたたえられるべき高い資質の国民と、さまざまな人に優しい施設についてです。一方で、日本の社会ルールは少々硬く単調とも思いましたが、そのルールには長所と利便性が多くあると感じました。中国において高齢化時代に入る今日、祖国がもっと人間性を体现できるよう、自分も頑張りたいと思います。

このような高い資質の国と交流していくことは、一部の過激分子の言論を除外すれば、それほど悩む必要のものではなく、また他国に害をなすこともないと思います。中日間の友情の木が末永く繁ることを祈ります。

○活動に参加する前は、日本人は面白くなくて、中国人に対して極端な偏見を持っている人たちだと思っていました。活動に参加した後、日本人はとても真面目で、親切で、他人を尊重し、礼儀正しく、綺麗好きだと思いました。

日本人の若者との交流がとても印象深いです。その原因の一つ目は、私はもともと異国の同じ年齢の青年に関心を持っていたこと。二つ目は日本の教室で、アコーディオンを弾いたに緊張感と楽しさを覚えたこと。そして授業に理性を感じたことです。また、日本人学生とのグループワークでは国際的、社会的な現実的意義を感じ、英語や少しの日本語とボディーランゲージで交流し、お互いの国の文化、学校生活などについて話し合いました。このような体験は私に貴重な思い出と感動を与えてくれました。

○尖閣諸島の事件と南京の虐殺事件をめぐる論争のため、日本人に対して偏見を持ち続けていました。今回の訪日で、日本人に対する印象が大きく変わりました。日本人は中国人を非常に尊敬しています。日本人の文化的素質は確かに高いです。

専門分野においては、環境保護について勉強になりました。新しい時代の中国青年として、環境保全とリサイクルの必要性を認識することになりました。今後、環境保護において自分なりの貢献をしたいと思います。

学校交流の中で、私は日本人学生の親切さを深く感じました。中日での学校教育の差異を認識し、中国の学生の得意なところにも気づきました、また日本人の学生はさらに「德智体美勞」における全面的な発展を重視しているとわかりました。勉強の能力については、中国の学生が確かに高いです。この点は、宮崎西高校で体験した貿易ゲームで感じました。この件は、中国の学生の实力を感じさせ、中国の発展を示すものでした。私は自分の母国を誇りに思います。全力を尽くして、母国の更なる繁栄に貢献したいと思います。

○活動に参加する前の私の日本のについての印象は、環境がよいということだけでした。活動に参加してみて、日本でのごみの分類が私の想像を超えていることがわかりました。彼らはごみを16種類にも分けています。また、日本人はとても礼儀正しく、ルールを守っています。時間に対しても厳しいです。以上の経験により、私は日本と日本人について、より深く理解できました。

学校を訪問する時、日本の学生との交流は言葉の障害がありましたが、印象深い思い出と体験を得られました。11月6日、福岡県立ひびき高校で、普通の高校と違う特色ある学校生活を体験しました。この学校は個性と人材を育てることを重視し、学生は自分の興味と専攻によって授業を選ぶことができます。彼らの音楽の授業に参加し、日本の学生の親切と思いやりを感じました。また9日、宮崎県立宮崎西高校で、たくさん勉強できました。ここの学生は、皆可愛くて、親切です。私たちは貿易ゲームに参加し、協力して「お金」を儲けようと思いました。私がいるチームは、みんな中国人の学生で、おかげで中国人チームメンバー間の交流と友情も深めることができ、みんなの関係をより良くしました。最後のお別れする時、名前も知らない男子学生が急に走ってきて私たちに手を振ってくれました。その彼の行動はとても印象深く、感動しました。

○今回の訪問活動を通じて、日本に対する印象が完全に変わりました。(中国)国内にいる時、日本のことは少しだけしか知らず、偏見も持っていました。しかし、本当に日本に来

てみると、まるで親切的な新しい世界に入ったようでした。政治上の意見の相違を脇に置き、歴史を忘れないという前提の下で、中日両国はお互いに優れるところを勉強し合うべきです。トヨタ自動車工場を見学する時、私の心は今までないほど震えました。ここであえて「震」を使うのは、本当に心が打たれたということです。全てオートマチックな設備で本当に素晴らしかったです。私は本当にこの技術を国に持ち帰りたいのですが、残念ながら、とても私ができることではありません。オートマチックな機械で人間の代わりに仕事をし、効率の向上だけではなく、高齢化の解決にも役立つと思います。この技術こそ、中国が羽ばたく翼となります。

この度、東京理科大学の教授の講義を受け、新型ソーラーエネルギーに対する理解が深まりました。このエネルギーは一見するとよくあるものですが、日本はこれを究極的に利用しています。もし中国が全種類のエネルギーを最高レベルまで利用できたら、世界のトップになれるのではないかと思います。この発見の旅で私たちと常にとともにあったのは、良好な環境でした。中国では環境問題がとても深刻な問題で、今日までうまく解決できていません。私は、日本の先進的な経験を学ぶことがとても必要だと思います。(環境の)改善とともに、国民のマナーもきっとよくなり、更に多くの人びとがより良い教育を受け、正統な、正真正銘の中国文化・アジア文化を伝承していくでしょう。中日関係もきっと「与日巨進」で、ここでは「巨」を使っても過言ではないと思います。

私は、友好の使者が必ず、ますます増え、中日関係が今までにない新時代に入ると信じています。ここで改めて、中日両国がお互いに助け合い、ともに調和社会へ邁進していけるよう心からお祈りしております。

○最も印象深いのは、学校の訪問でした。以前、日本の学校に対する最大のイメージは、綺麗な制服に可愛いお弁当、そして明るい楽観的な学生たちというものでした。実際に日本に来てみると、それだけではないと知りました。そして、日本人の学問を研究する態度の真面目さと謹厳さ、いつも礼儀が正しいというところは本当に賞賛すべきです。私は、ある小さなことに気が付きました。それは、学校に入る時に、皆が靴を履き替えることです。そして、学生たちには統一感があります。体育の授業の時、衣服と靴はみな一緒です。学校に通う時のカバンも一緒です。毎日全員が弁当を持ってきてお互いにシェアしたりして、クラスメート皆仲良しでした。

私たちが学校を離れる度に、案内してくれた人たちが、私たちが視野から消えるまで手を振ってお別れをしてくれました。途中で知らない学生に出会ったとき、その学生たちも手を振って挨拶してくれました。これはとても気持ちいいことです。そして、二回の学校訪問の中で、私は日本の世界的に有名な茶道を体験しました。学校の茶道部で、私たちは和菓子を食べ、香ばしい抹茶を味わい、日本の茶文化を体験しました。訪問の旅の中で、満足したのは私たちの胃と目だけではありません。それは精神世界にも及びました。

今回の日本訪問において、私は、日本への見方が変わっただけでなく、自分の心身も薫陶を受けました。礼節の風が私の体を吹きぬけていきましたが、何かを持ち去ったわけではなく、逆に私の中にその記憶をとどめることとなりました。日本の忠実でまじめな精神と経済・社会発展の理念も私たちの耳目を一新しました。今回の訪問はたった九日だったのですが、私は必ずこの九日間で見たこと、聞いたことと自分の気持ちを友達と共有したいと思います。微力ですが、我々も中日関係の発展に貢献できると信じています。私は、

中日の友誼が永世不朽であるよう願っています。

○この度の訪日交流活動は私にとって大変有意義でした。私は、日本という国、中日関係ないし国際関係に対する理解を深めました。私は今回の交流の中で、いろんな手段・方法で日本の科学技術・自然及び日本人の特徴を理解しました。日本に来る前、私は、日本人がみんな保守的で、厳肅だと思いました。しかし、九日間の訪問を通じて、日本人の方々と face-to-face のコミュニケーションができ、特に若い高校生たちと更なる交流をすることで、最後には深い友情を培えたのです。みんな情熱的で親切な人達でした。このことが今回の旅で私が最も印象深いこととなりました。

その他、北九州環境未来館で、日本の環境保護技術が私をびっくりさせました。資料では、日本の北九州市では 20 世紀の 50-60 年代において、環境汚染が非常に深刻な状況にあり、その海域がほとんど「死の海」になってしまったそうです。しかし、たった 30 年で、北九州の環境は既に徹底的に改善され、各指標が通常レベルに回復しました。このような環境保護技術に驚きます。我が国は未だ発展段階にあり、北九州のような道をも進んでいくと思います。中国が経済・工業を発展させると同時に、効率的な環境保護措置を学ばなければなりません。今、環境問題がだんだん重視されてきており、私は、このように発展していけば、中国の将来はきっと良くなると思います。

○最も印象深いのは、やはりトヨタ自動車九州株式会社の見学と福岡県立門司学園高校の学生との交流です。まず、11 月 5 日、私たちはトヨタ自動車の自動車製造工場を見学しました。ここは、レクサスの OEM をやっているそうです。一台の車は、15 時間の組立を経て、50 秒ごとに一台の車が完成されます。そこで、私たちは、人間と機械がパーフェクトに協力し、お互いのメリットを発揮し、効率をさらに向上させるところを見学しました。例えば、タイヤ・座席・ドアなど比較的重い設備は機械によって組立てられ、モーターはロボットによって据え置かれ、人がこれを確認して固定します。このラインは混合生産ラインであって、注文によって生産を行い、伝統の生産ラインが単一型車両を生産するのとは違って、まさに、現代のテクノロジーを究極に運用する手本であり、現代の経済発展に適したものです。

そして、11 月 6 日、私たちは、福岡県立門司学園高校の高校生たちと交流しました。これは、私たちにとって初めての日本高校生の学校生活を見学・体験する機会でした。4 名の女子学生が「Japan meets China」、そして、6 人の学生が「Cool Japan」を解説し、私たちに日本文化を簡単に紹介し、私たちに日本高校生の生活と活力とを見せてくれました。その後、私たちは ABC の三組に分けられ、学校を見学し、日本の伝統文化の茶道と書道を体験し、さらに、同じ授業を一緒に受けました。言葉がわからなかったのですが、同じ古代中華文化の継承者なので、文字だけでも授業の内容がすこし分かりました。日本のクラスでは、生徒たちがお互いに議論することができ、先生が友達のような存在で、とても自由な雰囲気でした。これは、中国が求めている授業のやり方ではないかと思います。

中国に帰ったら、日本人の民度の高さと九州の変化を紹介することで、素質を高めるように促したいと思います。そして、彼らに中日友好の民間訪問を紹介し、日本に旅行・留学するように勧めます。日本に習って、中国が早く先進国家になれるよう祈ります。

○日本訪問の9日間、隙がない日程で、毎日新しいことと出会いました。第1日目と第9日目、私たちがホテルについたとき、ホテルの従業員がすごく親切にしてくれて、最高のサービスをしてくれました。故郷に帰ったような感じで、日本人の方の親切とやさしさを感じました。

第2日目、私たちは早稲田大学と東京理科大学を見学しました。早稲田大学で、学術の交流と学問の自由、歴史の息吹と現代の芸術、そんな大学生活に憧れてしまいます。早稲田大学の図書館の蔵書は何百万冊もあって、劇場には有名人がたくさん来ており、中国人留学生たちが私たちと交流して質疑応答もしてくれました。そして東京理科大学では、熾烈な学術のぶつかり合いの雰囲気があり、自然と敬意を表したくなりました。

その後、私たちは福岡でトヨタ自動車九州株式会社を見学し、和風温泉旅館を体験しました。そして、福岡県立門司学園高校と北九州環境学習館、関門海峡博物館、門司港回顧展を見学し、また東京に戻り、日本科学未来館、墨田清掃工場、東京都立府中東高校、国会議事堂、浅草仲見世、秋葉原などを訪問、見学しました。この中で、私たちは、日本の温泉文化と和食を体験し、日本人学生と親しく交流し、友達も作れました。一番印象深いのは、福岡県立門司学園高校です。その学生の情熱が私をびっくりさせました。私たちのことを自分の親友のように扱ってくれ、思いやりがあってやさしく、本当に記憶に鮮明に残り、忘れられません。

中国に帰ったら、日本の生活を恋しく思うでしょう。もし誰かが私に日本の事を聞くとしたら、私は、日本の経済発展と環境保護の重視、そして日本人が中国人に対する親しさと優しさ、中華文化への憧れについて教えてあげたいと思います。中日両国の永遠なる友好を、心より祈っています。この花が永遠に咲きますように。

○今回の交流活動で一生心に残るのは、福岡県立門司学園高校の訪問です。その親切さは絶対忘れません。小さなビルディングの屋上にブルーの先端的なソーラー発電器が設置され、白い地面に多くの生徒がいて、暖かくスイートな笑顔が彼らの頬に浮かんでいました。私は、ここの温かな優しさに思わず引き込まれてしまいました。ここには「繁栄」はないかもしれませんが、その親切さは東京よりも遥かに上回っていました。

私は、なぜ日本人が学校に入る前に靴を脱がなければならないのか、と疑問に思いました。まさか環境保護を究めるためなのか？よくわかりませんが、日本の崇高な伝統文化と謙譲の礼儀に、とても感服しました。中国の学生が可愛らしくないのではなく、多分、閉じ込められ鎖につながれている牢獄のせいでしょう。やっぱり、もっと日本に学んで、幅広く学習し、多元化を進めれば開放感が得られます。そうしたら、笑顔も自然に出るでしょう。門司学園高校を離れた後、Mという女の子が話題になりました。笑顔に前髪、とてもとても可愛かったです。なぜ彼女がこんなにいい笑顔を持っているのだろう。まあ、理由はわからなくてもいいでしょう。何しろ、そこにいるとき、私も楽しいのです。こんな簡単なことなのです。日本において、数学や哲学の思惟は、かえって簡単になってしまいました。スカイツリーを仰ぎ見、日本海を見おろしました。世界はこんなにも美しいと感じました。

○日本にいる間、日本の多元的な文化を体験し、日本の友達と一緒に科学技術・文化・環境保護などの経験を共有しました。

科学技術面では、私たちはトヨタ自動車九州株式会社、日本科学未来館などの先端技術を見学しました。中国は日本と一定の差があるので、今回の見学は私たちの勉強と交流のチャンスです。日本の方の科学技術の探求精神・先進思想・イノベーション精神を見習うべきです。

文化面においては、東京理科大学、早稲田大学、福岡県立門司学園高校及び東京都立府中東高校。日本高校生との交流の中で、私たちと完全に違う教育制度を体験しました。日本の高校生たちが活発で、情熱で、とても元気です。どんなことでも100%のパッションと気持ちを込め、どんなことでも強い意欲でやり遂げる、このことについて、私たちは勉強しなければならないと思いました。

環境保護の面では、日本は世界のトップに立っています。北九州市立科学技術館と環境博物館を見学しました。北九州市は、たった50年でこの重工業都市を大いに変化させました。今、中国の環境汚染問題が非常に深刻であって、私は、先進的な環境保護の方法を他の人に教えたいと思いました。そうすればほどなく、中国の空にも青空と白い雲が現れるでしょう。

日本人の友人たちのもてなしと優しさに感動しました。日本政府が私たちにこの貴重なチャンスを与えてくれたことに、感謝します。

○今回の訪問を通じて、日本の食べ物を食べ、温泉文化を体験し、学校・環境保護工場・清掃工場などを見学しました。十数日前はまだ学校で授業を受けていたのに、今もう日本に来ていて、まるで夢のようです。日本で体験した全てのものがとても貴重です。中国で見られないし、旅行でも見られないと思います。ノーベル化学賞（受賞候補となった）、藤嶋昭先生と近くで接し、先生の「科学も感動から」のスピーチを聞き、なぜ先生が「光触媒」の研究をなさったのか分かりました。先生は努力と成果が常に1:1だとおっしゃいました。本当に感服しました。早稲田大学の訪問では、留学生といろいろ交流しました。彼らが早稲田大学及び日本の文化・食物・買物などを紹介してくれて、なかなかいい経験でした。早稲田大学はとても自由な大学で、学生も優秀で、勉強することだけではなく遊ぶことも上手でした。これこそ最高の学生だと思います。その後、福岡県立門司学園高校に行き、高校生たちと交流し、授業も体験し、同世代の人々が何をやっているかが分かりました。日本人の親切さと中国に対する興味も感じました。門司学園高校の部活は本当に羨ましい。中国でもこんなに気軽で自由だったらいいと思います。門司学園高校では着物と茶菓子体験し、日本文化への理解が深まりました。そして日本環境保護博物館に行き、職員の方の説明を聞き、日本が凄まじい努力で環境を保護して、やっと日本を世界一綺麗な国にしたことを知りました。中国のような大国が環境保護の面で日本に及ばないことを、恥ずかしく思います。日本訪問の日々、恐らく私の人生の中で最も重要な旅行となりました。中日友好交流の橋を架けただけではなく、たくさんのものを勉強しました。もし機会があれば、是非また日本に来て、もう一回「親密な接触」をしたいものです。